



日本災害情報学会

第4回研究発表大会プログラム

開	会	11月6日(水)	午前9時30分	
研	究	11月6日(水)	午前9時40分	～ 午後5時10分
	表	11月7日(木)	分	～ 午後0時10分
懇	親	11月6日(木)	午前9時30分	～ 午後8時
	会		午後6時00分	
理	事	11月7日(木)	午後0時10分	～ 午後1時00分
特	別	11月7日(木)	午後1時10分	～ 午後3時00分
報	告		分	
総	会	11月7日(木)	午後3時00分	～ 午後3時30分
シ	ン	11月7日(木)	午後3時30分	～ 午後5時30分
ン	ポ		分	
ジ	ウ		午後5時30分	
ウ	ム		分	
閉	会	11月7日(木)	午後5時30分	

会 場：東京大学 山上会館 懇親会会場：館内レストラン 懇親会費：5000 円
 参加費：会員 1000 円（非会員 3000 円） 予稿集代：会員 2000 円（非会員 3000 円）

11月6日（水） 進行 川端信正事務局長

【開 会】 午前9時30分 挨拶 廣井 脩会長

【研究発表】 午前の部 午前9時40分～正午（座長 中森広道）
 ○印：講演者 講演持ち時間 20分（発表15分、質疑5分）

災害情報

三宅島噴火災害における情報支援活動の現状と課題
 ○千川剛史（大妻女子大学）

建設 CALS に備えた情報ネットワークの防災利用
 ○浅田純作（松江工業高等専門学校） 大屋 誠（同） 高田龍一（同）、
 片田敏孝（群馬大学）

世界災害共通番号（GLIDE）の概念と運用
 ○荒木田 勝（アジア防災センター） 村田昌彦（人と防災未来センター）

意思決定を支援する災害情報コミュニケーションのあり方に関する研究 ～有珠山
 噴火時の災害対応をケーススタディとして～
 ○花原英徳（株建設技術研究所） 松尾一郎（同） 田中 淳（東洋大学）
 宇井忠英（北海道大学）

岐阜地方気象台が発表した山林火災時の防災気象情報～消火活動に対する効果と課題～

○木津寛二（岐阜地方気象台）

「平成13年（2001年）芸予地震」における情報と住民の対応

○中森広道（日本大学） 廣井 脩（東京大学社会情報研究所）

田中 淳（東洋大学） 中村 功（松山大学） 宇田川真之（建設技術研究

所）

関谷直也（東京大学）

東海地震防災対策強化地域拡大に関する考察—警戒宣言発令に伴う経済的影響試算—

○長井建人（(株)日本総合研究所） 鈴木敏正（同）

【研究発表】 午後の部① 午後1時00分～午後3時20分（座長 中村 功）

○印：講演者 講演持ち時間 20分（発表15分、質疑5分）

防災計画、減災

広域災害における応援要請プロセスの提案と解析

○大豆生田 顕（電気通信大学） 田中健次（同）

岩手山登山者安全対策の現状と課題

○斉藤徳美（岩手大学） 山本英和（同） 佐野 剛（同）

自然災害におけるヒヤリ・ハットの有効性について

○申 紅仙（防災科学技術研究所） 中根和郎（同）

広域／地域防災のための「適応危機管理システム」 ～行政、企業、メディア、個人のマネジメント支援～

○宋 聡（光陽無線(株)） 川合裕子（同）

住民にわかりやすい地域防災情報学習の取り組み第2報～その後の台風を経験して～

○湯川典子（アジア航測株式会社） 菊井稔宏（(財)砂防・地すべり技術センター） 瀬尾克美（(株)総合防災システム研究所） 天野 篤（アジア航測株式会社）

災害情報および避難情報の効率的な伝達に関する検討 ～岩手県山田村における事例調査～

○阿部郁男（東北大学災害制御研究センター） 今村文彦（同）

2002年台風6号接近時の自治体における防災情報の収集状況

○牛山素行（東北大学災害制御研究センター） 今村文彦（同）

片田敏孝（群馬大学工学部） 越村俊一（人と防災未来センター）

【研究発表】 午後の部② 午後3時30分～午後5時10分（座長 田中 淳）

○印：講演者 講演持ち時間 20分（発表15分、質疑5分）

防災情報システム

高潮・津波対策システムへの提言 遠隔監視・自動制御・避難誘導・情報集約のパッケージ化

○伊永 勉(株)アニメックス防災事業本部) 島村真二(Hitz 日立造船(株))

災害体験共有システムの検討

○中根和郎(防災科学技術研究所) 申 紅仙(同) 石井 和(三菱総合研究所)

Webを用いた火山情報リアルタイム配信システムの構築

○五味新一郎(アジア航測(株)) 藤田英輔(防災科学技術研究所)
鶴川元雄(同) 周 小明(ビービーエス)

河川流域総合情報提供システム2002

○池田 茂((財)河川情報センター) 斉藤貴裕(同)

インターネットを活用した市町村向け災害情報システム

○渡辺雅洋((財)消防科学総合センター) 山瀬敏郎(同)

今年は、初日に懇親会です。

懇 親 会

午後6時00分～午後8時 館内レストラン (参加費 5000円)

11月7日 (木)

進行 川端事務局長

【研究発表】

午前9時30分～午後0時10分 (座長 高橋和雄)

○印：講演者 講演持ち時間 20分 (発表15分、質疑5分)

災害報道

原発誘致をめぐる住民投票(三重県海山町の場合)を“メディア”は如何に伝えたか

○中島敬行(防災技術調査研究所)

「風評被害」論 — 「環境汚染」の実態とコミュニケーションの乖離—

○関谷直也(東京大学社会情報研究所)

災害報道の放送サブツールとしてのWEB

○武居信介(中京テレビ(株))

火山災害

噴火終息後における島原市民の地域防災力に関するアンケート調査

○高橋和雄(長崎大学) 井口敬介(同)
木村拓郎((株)社会安全研究所) 中村聖三(長崎大学)

岩手火山と磐梯火山における臨時火山情報発表後の対応の差

○佐藤 公(磐梯山噴火記念館)

活火山の再定義とランク付け

○宇井忠英（北海道大学） 井田喜明（姫路工大） 鎌田浩毅（京都大学）
林信太郎（秋田大学） 川辺禎久（産業総合研究所） 加藤幸弘（海上保安庁） 千葉達朗（アジア航測） 藤田浩司（同） 塩谷みき（同）

富士山噴火の社会的影響 ー特に降灰の影響を中心とした定性的シナリオー

○辻本 篤（東京大学社会情報研究所） 関谷直也（同） 廣井 脩（同）

最近の火山ハザードマップから ー有珠山改訂とアトサヌプリー

○稲葉千秋（国際航業（株）） 永田直己（同）

【理事会】 午後0時10分～午後1時00分 館内001会議室

【特別報告】 午後1時10分～午後3時00分 研究発表会場 （進行）川端事務局長

1. 明石歩道橋圧死事故報告（50分）

京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授 河田 恵昭

2. 有珠山2000年噴火と火山防災（60分）

北海道大学大学院理学研究科火山観測研究センター長教授 岡田 弘

【総会】 午後3時00分～午後3時30分 研究発表会場

【シンポジウム】 午後3時30分～午後5時30分 研究発表会場

テーマ 「東海地震と防災情報」

コーディネーター 廣井 脩 東京大学社会情報研究所長

パネリスト 川端 信正 静岡総合研究機構防災情報研究所主任研究員
谷原 和憲 日本テレビ報道局デスク
布村 明彦 内閣府参事官（防災担当）
横田 崇 気象庁地震火山部地震情報企画官
吉村 秀實 富士常葉大学環境防災学部教授

【閉会】 午後5時30分 挨拶 伊藤 和明 副会長